

検査の目的と見方



	検査項目	検査でチェックできること及びわかること
画像	心電図検査	不整脈・心肥大・狭心症や心筋梗塞等を診断できます。
	胸部X線検査	心臓の大きさ、全体的な肺の状態がわかり、肺がんや肺結核の初期診断に有用です。
	胃部X線造影検査	消化管をバリウムと発泡剤で造影する検査で、食道・胃・十二指腸等の詳しい状態を知ることができます。
	胃部内視鏡検査	食道から、胃・十二指腸までを口から挿入した細い内視鏡を通して観察します。直接見ることで、X線検査では発見の難しい小さな病変まで観察できます。また、胃の組織片を切り取り検査する生検や細胞診などで病気の確認も行ないます。
	腹部超音波検査	超音波が体の内部に当たって反響される具合を映像に変えることにより、体内の反響(エコー)で臓器の形を画像化して体の内部の状態を観察します。肝臓・腎臓・膵臓・脾臓・胆嚢・膀胱・前立腺などの腫瘍、結石などを調べます。
	眼底検査	高血圧や動脈硬化の進行度、糖尿病による合併症、眼球内の病気などを発見する事ができます。
計測	肥満度(BMI)	身長と体重をはかって肥満度を出し、太りすぎ、痩せすぎをみます。 特に肥満は生活習慣病の温床であり、肥満気味の方はまず標準体重に近づけましょう。 ※標準体重(身長(m)×身長(m)×22)
呼吸器	肺機能検査	肺の主な働きは、空気中の酸素を体内に取り込み、体内の二酸化炭素を体外に排出することです。肺機能検査は、この肺の働きを測定する検査で、肺機能障害の早期発見や病気の診断に役立っています。気管支炎、喘息、塵肺、肺気腫、肺線維症などの気管支及び肺疾患の有無と程度がわかります。
循環器	血圧	心臓が血液を送り出す時の圧力を収縮期血圧(最高血圧)、心臓が元に戻った時の血圧を拡張期血圧(最低血圧)といいます。血圧が高いと脳や心臓の病気が増えます。
消化器	便潜血反応検査	消化管で出血すると便の中に血液が混入して排泄されます。検査では、微量な赤血球の成分まで検出でき、陽性の時は、大腸がん・大腸ポリープ・消化性潰瘍・胃がんなどを疑います。
脂質	総コレステロール(T-CHO)	血液中のコレステロールの量を調べる検査です。値が高いと動脈硬化を起こす原因になります。
	HDLコレステロール	血管に付着したコレステロールを運びさる働きがあります。値が低いと、動脈硬化や心臓病の危険性が高くなります。運動により値が増加することが知られています。
	LDLコレステロール	血管壁に蓄積し動脈硬化を促進します。増えると狭心症、心筋梗塞の原因になります。
	中性脂肪(TG)	増加すると、動脈硬化の原因になります。中性脂肪が増えるとHDLコレステロールが減少します。肥満・飲酒・糖尿病などで値が増加します。
腎機能	クレアチニン(CRE)	筋肉が活動した時に出来る物質で腎臓から排泄され、腎臓機能の指標となります。老廃物の1種で腎臓の機能が低下すると排泄できなくなり、血液中に増加します。
	尿蛋白	腎臓の病気を見つける手がかりになります。運動や高熱でも出現する事があります。
	尿潜血	尿路(腎臓・尿管・膀胱・尿道)からの出血を見る検査です。健康な人でもごく少量みられる事があります。
痛風	尿酸	蛋白質が豊富な食物にはプリン体が多く含まれ、核酸から尿酸になります。増加すると関節に沈着し、痛風の原因になります。

	検査項目	検査でチェックできること及びわかること
肝・膵機能	総蛋白	タンパク質の総量で、肝機能や腎機能の障害などの異常を調べます。
	アルブミン (ALB)	血清中の蛋白質は、50～70%がアルブミンで構成され、生命維持に重要な役割を担っています。その量を調べることにより、栄養状態や肝障害などがわかります。
	AST (GOT)	心臓や肝臓の細胞の中にある酵素で、病気で細胞が壊れると血液中に大量に出てきます。これらの血液中に出た量を調べ、肝臓や心臓の異常を発見します。
	ALT (GPT)	
	ALP	おもに肝臓や胆道の異常を調べる検査です。ASTやALTと同時に調べ、それらに異常がない場合は、肝臓・胆道以外の病気が疑われます。
	LDH	臓器の細胞が破壊されると血液中に流れ出て、値が上昇します。急性肝炎・心筋梗塞などが疑われます。
	γ-GT (γ-GTP)	おもに肝臓や腎臓に含まれる酵素で、肝臓病(特にアルコール性肝障害)の発見の手がかりとなります。閉塞性黄疸や肝臓障害で上昇します。
	総ビリルビン	肝機能検査のひとつで黄疸の有無、黄疸の種類を診断する決め手となる検査です。
	血清アミラーゼ (AMY)	膵臓や唾液腺で作られます。膵臓や唾液腺などに炎症があるとその臓器の細胞が破壊され血液中に流れ出し高値になります。膵臓疾患ほか耳下腺炎や胆石症などでも上昇します。
糖代謝	空腹時血糖	生体の重要なエネルギー源でインスリン・各種ホルモンにより調節されています。しかし、調節因子の機能に支障をきたすと血糖値は異常になります。糖尿病・甲状腺機能亢進症などで高値、インスリン分泌過剰・副甲状腺不全・肝硬変・悪性腫瘍の一部で低値になります。
	ヘモグロビンA1c	血糖値は常に変化していますが、ヘモグロビンA1c値は過去1～2か月間の平均的な血糖状態を知ることができます。検査直前に食事しても正常なら範囲を超えることはありません。
	尿糖	血糖値が高いときに増えることがあります。
血液一般	白血球 (WBC)	炎症や感染症の有無を診断します。白血球は体内に入ってきた細胞や異物を攻撃するため、体のどこかに炎症や感染を起こしていると数値は上がります。
	赤血球 (RBC)	血液中の赤血球の数を調べる検査です。赤血球は血液の主成分で、酸素を体の各細胞に運び、老廃物を運び去る働きをしています。
	ヘモグロビン (Hb)	赤血球の中にある色の成分です。貧血の分類に役立ちます。色素が血液100mlに何g含まれているか調べる検査です。
	ヘマトクリット (HCT)	血液中に赤血球が占める割合。貧血の程度を知る上で役立ちます。減少すると貧血が疑われます。意義については赤血球とほぼ同じです。
	血小板 (PLT)	出血を止める働きに関与し、悪性貧血・薬物・放射線照射などで低値を示します。少なくなると血が出やすくなり、止まりにくくなります。紫斑病、白血病等で減少します。

